

被災地支援 取り組み紹介

岡山同友会がフォーラム



被災地の復興に向け、現地での取り組みなどを紹介したフォーラム

2年炭田優也さんらが登壇し、現地での取り組みなどを紹介した。約150人が聴講。

パネルディスカッションには森田学長、炭田さんのほか、黒住宗道黒住教副教主、高木二三男県産業振興財団産業プロモータ、石川康晴クロスカンパニー社長の5人が参加した。

黒住副教主と炭田さんは「ヘドロの下からは衣類や写真が見つかり、突然壊された被災者の日常生活を実感した」と話し、森田学長は「被災地に行かなければ本当の惨状は分からない。現場を見ることは座学よりはるかに大切だ」とした。石川社長は被災地の雇用を支援するため、104人に内定を出した取り組みを紹介した。

フォーラムの様子は12月4日午前10時から1時間、山陽放送のラジオ番組で放送される。(難波孝光)

岡山経済同友会主催の教育フォーラム「震災復興と岡山の大学生」が23日、岡山市北区柳町の山陽新聞社さん太ホールで開かれた。同友会は8月下旬、県

内大学生らをボランティアとして東日本大震災被災地の岩手県大槌町に派遣。派遣の企画に加わった森田潔岡山大学長やボランティアに参加した環太平洋大